

# 高倉だより



評価特集号

平成20年12月1日

京都市立高倉小学校

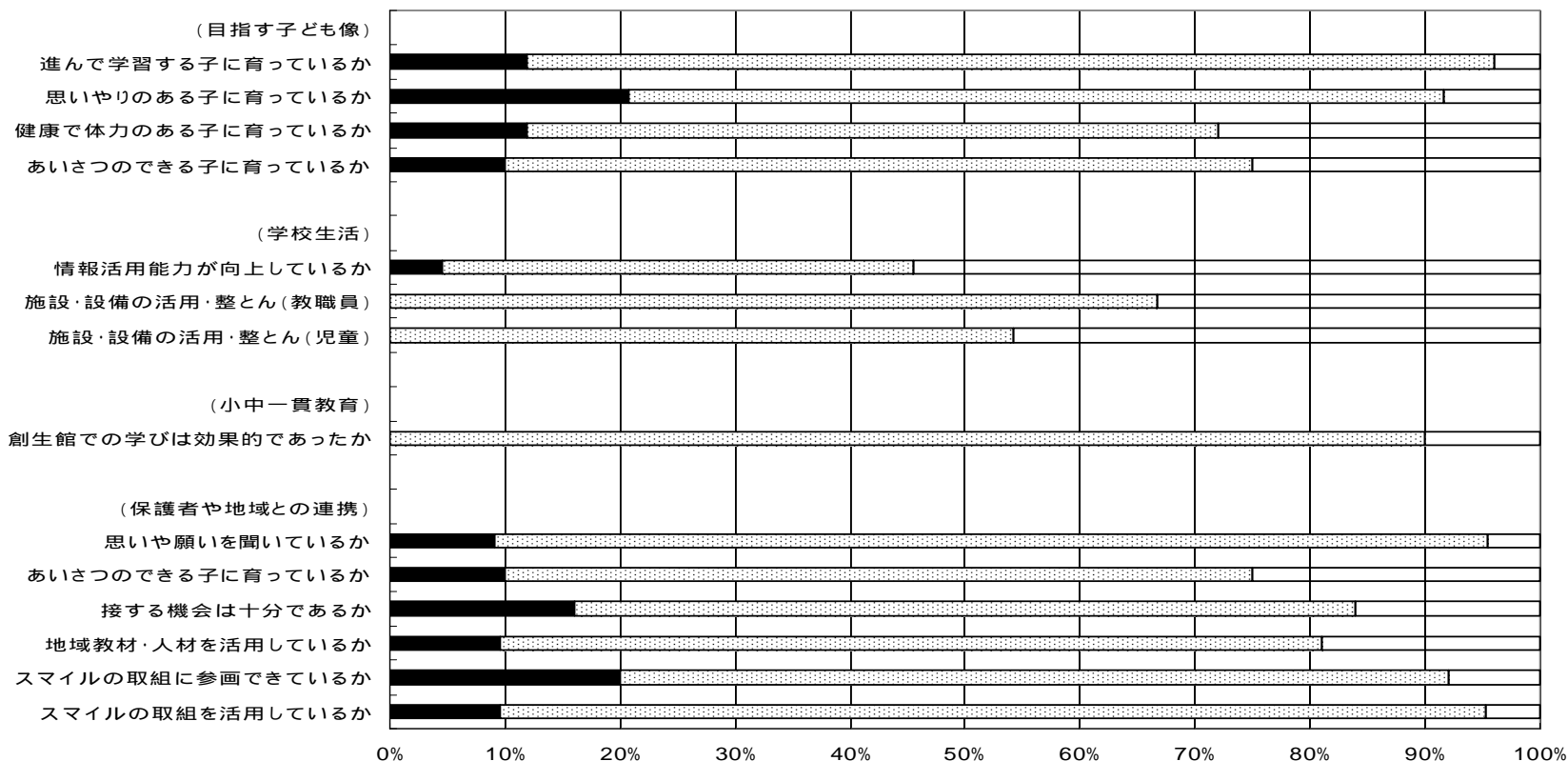
## 教職員自己評価（前期）より

師走に入り、朝夕の冷え込みが厳しくなってきました。運動会や秋の遠足等行事の多い後期の前半も終わりに近づき、今年もあと一月を残すばかりとなりました。平素は、高倉教育にご理解とご支援を頂きありがとうございます。

さて、学校評価の一つに「教職員自己評価」があります。これは、教職員が自分たちの取組を振り返り、学校教育目標の達成に向けてどの程度進められているのかを把握し、一人一人が問題意識をもって主体的に教育活動に取り組むことをねらいとしています。前期と後期に1回ずつ、アンケート形式で計2回実施しております。今回は、今年度、前期に実施しました「教職員自己評価」の結果から、いくつかの項目について考察しましたことをお知らせします。

### 学校運営自己評価（教職員） 抜粋

■よくできた □できた □あまりできていない □できていない



#### 結果と考察

(目指す子ども像)「健康で体力のある子」に課題が見受けられます。学校では、外遊びを奨励したり、新体力テストの結果を分析し、体育の授業等に活かしたりしていきたいと考えています。また、「早寝・早起き・朝ご飯」の取組も家庭と連携して継続していくべき大切な取組であると思います。

今年度の重点課題である「あいさつのできる子」については、昨年度の評価と比較すると満足・概ね満足できる割合が64% 75%とポイントは上回ってきています。今後も、地域ぐるみで取り組み、「自分からあいさつのできる子ども」を育てていきたいと考えています。

(学校生活)「施設・設備の活用・整とん」は、昨年度も課題であった項目です。昨年度の評価と比較すると、満足できる・概ね満足できる割合が児童36% 54%、教職員42% 67%と昨年よりポイントは上がってきていますが、十分達成しているとは言えません。整理整とんを心がけることが、より効果的な施設・設備の活用につながります。使った物は元へ戻すこと、身の回りの整理整とん等を、家でも学校でも常に大人が意識し、自ら率先すると共に、ねばり強く、継続して子どもたちにやり遂げさせることが大切だと考えます。

(小中一貫教育)京都御池創生館での新しい学びとして、前期に6年生と9年生との交流授業(体育)を実施しました。また、御所南小6年生と合同で朝会や委員会を進めることもできました。一部の委員会では、中学生と合同で活動をしています。御池フェスティバルにも京都御池創生館の6年生として2小学校が合同チームで参加したり、部活動体験も回数が増えたりする等、交流が進み、新しい学びを創ることができました。後期は、その成果と課題を踏まえ、交流をさらに進めていけるようにと考えています。